令和５年　９月

令和５年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和５年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和5年4月18日（火）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語　１４人	算数　１４人	理科　１４人
第５学年	国語　１８人	算数　１８人	理科　１８人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

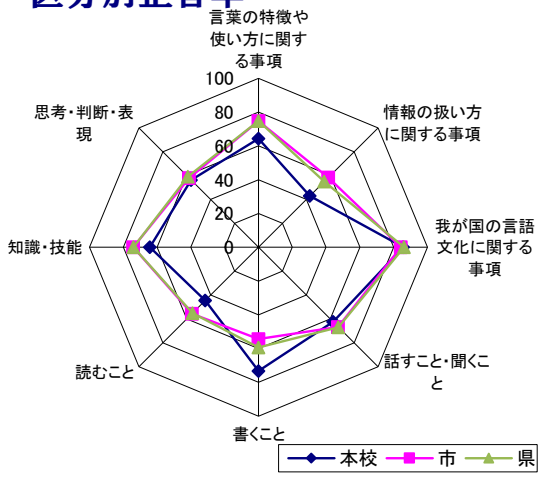
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.3	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	42.9	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	85.7	84.3	86.1
	話すこと･聞くこと	62.5	66.7	66.9
	書くこと	73.2	54.3	59.3
	読むこと	44.6	55.6	55.2
観点	知識･技能	64.3	74.1	74.0
	思考･判断･表現	56.3	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

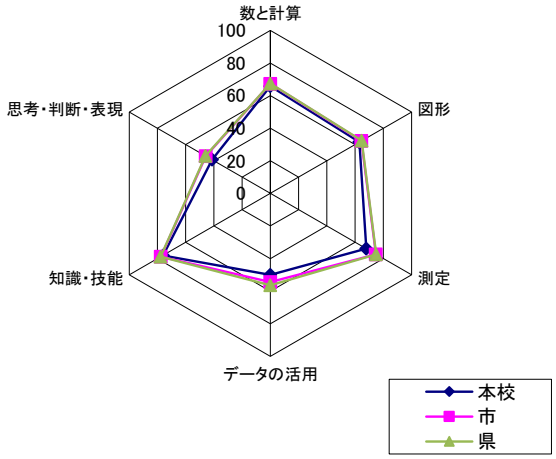
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は64.3%で，市平均を大きく下回った。 ●「漢字を正しく読む」設問では，市平均を下回った。 ●「漢字を正しく書く」設問では，市平均を下回った。 ●「指示する語句を適切に使う」設問では，市平均を下回った。 ●「ローマ字の読み」の設問では，市平均を下回った。	既習の漢字を必ず使用することを徹底し，忘れたり間違えたりした漢字は正しく書くことを繰り返し指導することで，既習漢字の定着を図っていく。また，家庭学習や自主学習などでも漢字練習の時間を確保する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は42.9%で，市平均を大きく下回った。 ●「国語辞典の使い方を理解する」設問では，市平均を大きく下回った。	1人1台端末を使用し，言葉の意味を調べる活動を取り入れていく。また，辞書を使うことを奨励し，国語科の学習だけでなく，他の教科でも分からない言葉を辞書で調べることを習慣化していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は85.7%で，市平均をやや上回った。 ○「漢字がへんやつくりから構成されていることを知る」設問では，市平均と同程度であった。	自ら進んで多くの漢字に触れる場を設定していくと同時に，国語辞典や図書資料等の利用を通して部首や成り立ちについて理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は62.5%で，市平均をやや下回った。 ○「話し方の工夫を捉える」設問では，市平均をやや上回った。 ●「伝えたいことの中心をとらえる」設問では，市平均を大きく下回った。 ●「理由を挙げて相手に伝わるように話す」設問では，市平均を大きく下回った。	様々な学習場面において，目的に応じた質問の仕方，相手の意見に関連付けた自分の意見の述べ方などの話型を示し，繰り返し指導していく。また，関連性の高い発言をつなげたり，自分の考えを理由を述べながら伝えたりすることで，話合い活動が充実することを実感させ，よりよい話合い活動の仕方を身に付けられるようにする。
書くこと	平均正答率は73.2%で，市平均を大きく上回った。 ○「指定された長さの文章を書く」設問では，市平均を非常に大きく上回った。 ○「段落の役割を理解する」設問では，市平均を非常に大きく上回った。 ○「自分の考えを明確にして文章を書く」設問では，市平均を大きく上回った。	作文や日記などの指導においては，個別指導が効果的なので，授業の振り返りやまとめの際に，個別に条件を設定し，与えられた条件に合致させながら書く経験を積ませていく。普段から字数や段落数などの条件に合わせて文章を書くことで文章表現力を高めていく。
読むこと	平均正答率は44.6%で，市平均を大きく下回った。 ○「中心となる文を見つけ要約する」設問では，市平均を上回った。 ●「登場人物の気持ちを捉える」設問では，市平均と同程度であった。 ●「段落の内容を捉える」設問では，市平均を下回った。	学年や児童の実態に合った文学作品や説明文を紹介し，読書への意欲付けを図っていく。また，文章に書かれていることから登場人物の性格や気持ちを推測させるために，叙述に沿った読解力を育てるために，人物の考え方や性格をみんなで考える活動などを取り入れていく。

宇都宮市立城山西小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.8	67.3	67.4
	図形	62.9	64.5	64.7
	測定	67.9	74.7	74.9
	データの活用	50.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	76.1	77.6	77.8
	思考・判断・表現	41.4	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

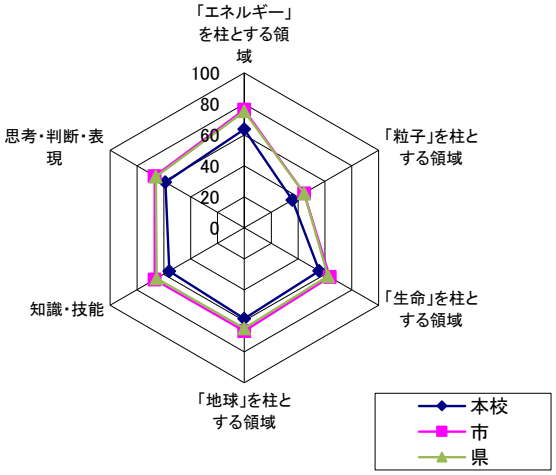
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は65.8%で，市平均と同程度だった。 ○「大きな数の表し方」の設問においては，正答率が100%で市平均を大きく上回った。 ●「□を使った除法の式」の設問において，正答率が市平均を非常に大きく下回った。また，「□を使って問題の場面を図に表す」の設問においても，正答率が市平均を大きく下回っており，□を使った立式の理解に課題があることが推測される。	引き続き計算についての基礎的な知識について再度確認し，確実に身に付けさせるとともに，計算プリントやドリルで定着を図っていく。また，家庭学習や朝の学習，タブレットの活用を通して，適切な課題に取り組ませていく。 □を使った式の学習については，問題を数直線と結びつけながら理解できるように指導していく。
図形	平均正答率は62.9%で，市平均と同程度だった。 ○「円の中心とコンパスの使い方」の設問において，正答率が市平均を大きく上回った。 ●「円の半径と直径」の設問において，正答率が市平均を下回った。	円の性質を復習するとともに，道具としてのコンパスの特性を確認することで，図形の性質の理解をさらに深められるように指導する。また，根拠を基に説明する経験を計画的に積ませていく。
測定	平均正答率は67.9%で，市平均を下回った。 ○「はかりの目盛りを読み取り，重さを答える」設問において，正答率が市平均を上回った。 ●「地図から道のりを読み取ってその和を求める」の設問において，正答率がともに市平均を非常に大きく下回った。	基礎的事項の定着が見られるが，より重さや距離などの量的感覚を身に付けさせるために，身の回りの物の重さや長さをはかる活動を多く取り入れ，体験を通して実感を伴った理解を促していく。
データの活用	平均正答率は50%で，市平均をやや下回った。 ○「棒グラフを読み取る」設問において，正答率が県の平均を大きく下回った。 ●「棒グラフの１めもりの大きさに着目して，正しいものを選ぶ」設問において，正答率が市平均を上回った。	棒グラフを見て，1目盛の大きさや量を正しく読み取るだけでなく，様々な見方から棒グラフを読み取る力を付けるるためには，棒グラフを見て，気付いたことや分かったことを話し合う活動を多く取り入れ，自分の考えを書く機会を設けるようにする。 さらに，算数科だけでなく，社会科や理科の学習内容との関連付けを図り，表やグラフを読み取る力を養いながら，根拠を基に説明する経験を計画的に積ませていく。

宇都宮市立城山西小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	63.6	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	35.7	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	55.8	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	58.6	66.6	64.9
観点	知識・技能	55.9	66.8	65.4
	思考・判断・表現	58.8	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は63.6%で，市平均を大きく下回った。 ○「実験の目的に応じた記録の表し方」の設問において，市平均を大きく上回った。 ●「鏡で反射した光の進み方」の設問において，市平均を非常に大きく下回った。	光や風等に関する実験では，実験の目的，予想をしっかりおさえ結果に対する考察を充実させることにより，エネルギーに関する基本的な知識技能を習得させていく。また，電気を通す性質や電流の回路に関する学習では，分かったことを自分の言葉でまとめることにより，基礎学力の定着を図っていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は35.7%で，市平均を下回った。 ○「姿勢を変えて測った体重」の設問において，市平均をやや上回った。 ●「形を変えた粘土の重さ」の設問において，市平均を大きく下回った。	形を変えた粘土の重さの学習等では，形を変えても重さは変わらないということを児童の生活に結び付け実感させることで，概念の定着を図っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は55.8%で，市平均を下回った。 ○「アゲハが卵を産み付ける所」の設問において，県の平均を大きく上回った。 ●「植物の観察の仕方や記録」の設問において，市平均を下回っている。	昆虫や植物の学習では，実物をよく見る活動だけでなく，図鑑や動画などを効果的に活用し，調べたことを自分の言葉でまとめたり，説明したりする活動を取り入れる。また，記述の問題が苦手な児童には，記述例を示したり教科書の記載を参考にするよう促したりしながら，徐々に書くことができるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は55.8%で，市平均を下回った。 ○「影の動き」の設問において，市平均を大きく上回った。 ●「温度計の使い方や太陽の位置の変化」の設問において，市平均を大きく下回った。	観察や実験等を充実させることにより，実体験から確実な学習内容の理解へとつなげていく。また，模型や動画で確認することにより，学習内容の定着を図る。方位のとらえ方や，温度計の使い方については，理科の時間だけでなく，学校生活の様々な場面で取り入れ，技能面の習得を図る。

宇都宮市立城山西小学校 第４学年 児童質問紙調査

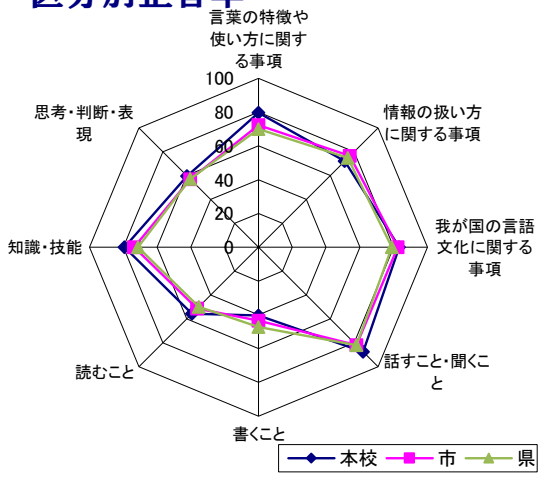
★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」の設問において肯定割合が100%で，市平均を上回った。今後も必要に応じて適切な量を個別に設定できるよう，保護者と連絡・相談していく。
○「本やインターネットなどを利用して，勉強に関するじょうほうを得ている」の設問において，肯定割合が市平均を上回った。朝の時間には読書や読み聞かせボランティアの活動等，本に接する時間が確保できている。個人用パソコンについても，ルールやマナーを守りながら子ども達が自由に活用し，友達同士で教え合える環境が確立されている。今後も本とインターネットの両方の良さを活用できるよう指導を続けていく。
○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問において，肯定割合が市平均を大きく上回った。
○「授業では，自分の考えを発表する機会があたえられている」の設問において，肯定割合が市平均を上回った。積極的に発表することができる児童が多く，話合いや発表を通して考えが深まる場面も多い。このような児童の特性も生かしながら指導を続けていく。
○「授業の最後に，学習したことをふり返る活動をよく行っている」の設問において，肯定割合が市平均を上回った。宇都宮モデルを基本として「問題→めあて→課題解決→まとめ→振り返り」を定着させてきた結果と考えられる。今後は振返りの内容を充実させることに主眼を置いて指導を続けていく。
○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の設問において，肯定割合が市平均大きくを上回った。
○「次の教科などの学習は，将来のために大切だと思いますか」の設問において，総合的な学習の時間の肯定割合が100%で，市平均を大きく上回った。
●「家の人と将来のことについて話すことがある」の設問において，市平均を非常に大きく下回った。
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の設問において，肯定割合が市平均を大きく上回っており，書くことに対する抵抗感が高いということがうかがえる。
●「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の設問において，肯定割合が市平均をやや下回った。学習に対して熱心な家庭が多く，保護者の声掛けが日常的にあることから，このような結果になった可能性がある。今後，児童が自主的に取り組みたいと思える学習課題の提示ができるよう努めていく。
●「将来の夢や目標をもっている」の設問において，肯定割合が市平均を大きく下回った。総合的な学習や特別活動を中心に，キャリア教育の視点をもって指導に当たり，将来の展望が持てるよう働きかけていく。また，自己肯定感を高める取り組みを積極的に行い，挑戦してみようと思える精神的な強さも涵養していきたい。
●「次の教科の授業内容はよく分かりますか」「次の教科などの学習は，将来のために大切だと思いますか」の設問において，国語科の肯定割合が市平均を大きく下回った。
●「国語の授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気を付けて書いている」の設問において，肯定割合が市平均を非常に大きく下回った。書くことに苦手意識を感じていることや，「意図を明確にして」書くという点に意識している児童が少なかったとによる結果であると考えられる。授業での発言や朝のスピーチなどの際に意図が伝わるよう助言し，徐々に書くことにも移行させていく。

宇都宮市立城山西小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.6	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	72.2	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	83.3	82.4	78.9
	話すこと･聞くこと	87.5	81.9	82.0
	書くこと	40.3	43.5	47.2
	読むこと	55.6	51.4	49.8
観点	知識･技能	79.3	73.6	71.3
	思考･判断･表現	59.7	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

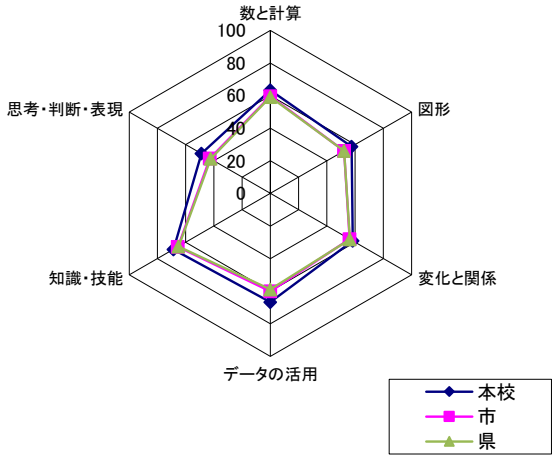
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は79.6%で，市平均を上回った。 ○漢字の読み書きについての設問において，6問中4問が市平均を上回り，2問は市平均と同程度だった。 ●連用修飾語の設問において，正答率が11.1%と，他の設問に比べて低かったが，漢字に関しては，おおむね理解できていると考えられる。	授業で学習することに加え，家庭学習を活用して新出漢字をしっかりと覚え，定着させていく。そして，使い方や，他の読み方，熟語などを習得できるよう指導していく。修飾語やことわざ等の言語事項については，定期的に授業や朝の学習や家庭学習で扱い，言語感覚を養う中で習熟を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は72.2%で，市平均をやや下回った。 ●「漢字辞典の使い方」の設問において，漢字辞典の使い方を理解し，調べ方として適するもの選ぶことができた児童もいた一方で，正しく理解していない児童も見られた。 分からない漢字や言葉の意味を調べる際に，国語辞典や漢字辞典を使うよりも，個人用パソコンを用いる児童が多いためと考えられる。	辞典の使い方の単元を中心にして，学習活動の中で意図的に辞典を使用させる場面を増やしていく。また，教室環境の整備を行い，すぐ手の届くところに辞典を配置し，日常的な活用を促していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は83.3%で，市平均と同程度だった。 ●「ことわざ」の設問において，意味を正しく知り，使うことができていた児童がいた一方で，ことわざの意味を正しく理解していない児童も見られた。	国語の授業において，ことわざや慣用句について取り上げるとともに，日常生活の中で教師自身が場面に応じたことわざや慣用句を使用していく。また，普段の自主学習でことわざや慣用句について調べたりまとめたりする児童もいるため，その活動を称賛し，学級全体で共有していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は87.5%で，市平均を上回った。 ○「話し手の工夫の共通点を説明した分として適するものを選ぶ」設問において，市平均を大きく上回った。普段の学習活動において，児童が学習課題に関心をもった上で話合い活動ができている結果であると考える。	話合い活動や議論の進め方についての指導を継続するとともに，学校全体で取り組んでいる「聞き方かきくけこ」についても再度確認しながら，さらなる定着を図っていく。
書くこと	平均正答率は40.3%で，市平均をやや下回った。 ●一定の条件を与えられ，それに沿って書かなければならない場合，条件が増えていくにしたがって正答率が低くなる傾向が見られた。授業での取り組みの様子からも，書くことに対する苦手意識をもつ児童が多いと考えられる。	各授業のノートの振り返り活動を継続していき，学習を通して学んだことや，考えたことを，自分の言葉で表現できるようにしていく。まとめを行う際は，文字数制限や段落構成の条件，必須で書く単語や内容の設定等を行い，与えられた条件に合致させながら書く活動を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は55.6%で，市平均をやや上回った。 ○「文章の内容を説明した文として，適するものを選ぶ」設問では，市平均を非常に大きく上回った。 ●「文章を読み，その内容を説明した文の空欄に適する言葉を書く」設問では，市平均を大きく下回った。	これまで学校全体で行ってきた読書推進活動も活かした上で，児童が様々な文章や表現に触れ，言語感覚を豊かにする機会の充実を図っていく。

宇都宮市立城山西小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.3	59.7	59.2
	図形	57.4	52.1	52.1
	変化と関係	58.3	56.1	56.3
	データの活用	66.7	60.1	58.9
観点	知識・技能	68.7	65.5	65.1
	思考・判断・表現	48.9	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

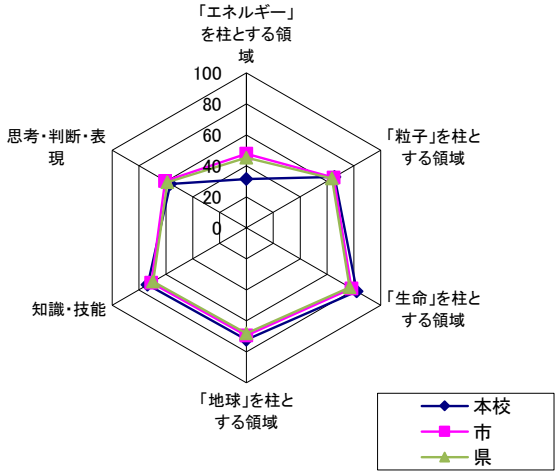
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が63.3%で，市平均をやや上回った。 ○数直線をもとに，異分母分数の大小関係について答える設問において，正答率が72.2%で，市平均を大きく上回った。 ●目的に応じて正しく見積もっているものを選ぶ設問において，正答率が11.1%と市平均を大きく下回った。基礎となる計算の仕方は定着している児童が多かった。	朝の学習や家庭学習等で練習を重ね，力を維持できるようにするとともに，発展的な学習内容にも取り組ませていく。 概算を用いて考える問題では，「切り上げ・切り捨て・四捨五入」のどの考え方が適切なのか，場面により違うことをしっかりとおさえ，実生活においても応用できるように取り組ませていく。
図形	平均正答率が57.4%で，市平均を上回った。 ○身近なものの面積と単位として正しいものを選ぶ設問において，正答率が44.4%と市平均を大きく上回っているものの，正答率は決して高いとは言えない。 ●面積の単位の関係を説明した文の空欄にあてはまる数をこたえる設問において，正答率は44.4%と市平均を上回っているが，無解答が27.8%もいた。	平面図形や立体における基礎的事項は身に付いている。さらに図形の形や大きさを実感できるように，実物を見せたり，物に例えたりするなど，教材を工夫し指導に生かしていく。 無解答率が高いことから，日常の学習においても最後まであきらめずに考える習慣を付けるとともに，個に応じた指導をすることで，学習内容の定着を図っていく。
変化と関係	平均正答率が58.3%で，市平均をやや上回った。 ○数量の関係について，正しく表された図を選ぶ設問において，正答率が83.3%と市平均を大きく上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係について，表をたてに見て分かることを説明する設問において，正答率が16.7%と市平均をやや下回った。	基準量と比較量の関係を数直線で表したり，伴って変わる量を考えたりすることは，理解している。だが，基準量と比較量から求めた割合を言葉で説明したり，表を見て変わり方について気付いたことを言葉で表現したりする，説明を伴う問題については，まだ不十分である。そのため，説明を図式化するなど，視覚的に捉えさせ，理解につながるようにするとともに，言語表現ができるように，国語などの他教科とも関連付けながら指導していく。
データの活用	平均正答率が66.7%で，市平均を上回った。 ○条件にあてはまる表の部分を選ぶ設問において，正答率が94.4%と市平均を大きく上回った。 データーを二次元表に表したり，読み取ったりすることはできている。	用途に合わせた表やグラフを活用したり，正しく読み取ったりすることができるように，社会科や理科などの他教科等とも関連を図りながら指導していく。

宇都宮市立城山西小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	31.5	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	65.7	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	82.2	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	72.2	69.5	68.1
観点	知識・技能	73.6	70.8	69.5
	思考・判断・表現	56.6	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は31.5%で，市平均を大きく下回った。 ●「並列つなぎの名称を答える」の設問において，正答率が44.4%で市平均を大きく下回った。 ●「簡易検流計の針のふれ方からわかることを答える」の設問において，正答率が21.4%で市平均を非常に大きく下回った。 ●「電流が大きくなる回路を選ぶ」の設問において，正答率が44.4%で市平均を大きく下回った。	電気の仕組みについては，ICTを活用して動画視聴したり，モデル図を使って視覚的に説明をしたりすることで理解を図っていく。実験や観察の技能についても繰り返し指導するとともに，基本的な観察の技能や器具の扱い方については，その都度確認し，定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は65.7%で，市平均と同程度だった。 ○「ボールに空気を入れるとはずむ理由について説明した文にあてはまる言葉を答える」の設問において，正答率が72.2%で，市平均を上回った。 ○「夏に線路のレールのつなぎ目がない理由を金属の体積の変化に着目して答える」の設問において，正答率が66.7%で，市平均を上回った。 ●「予想が正しかった場合の実験結果を選ぶ」の設問において，正答率が44.4%で，市平均を大きく下回った。	知識・技能を問う設問の正答率は十分だったので，実験結果を十分検討し考察することで，思考力や判断力を高めていく。さらに，考察において自分の考えを文章化することで表現力を高めていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は82.2%で，市平均を上回った。 ○「あてはまるサクラのようすを選ぶ」の設問において，正答率が77.8%で，市平均を大きく上回った。	恵まれた学校環境を生かし，四季の移り変わりや周辺環境にある動植物の観察の機会を多く設けることで，児童の興味・関心を高めていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は72.2%で，市平均を上回った。 ○「天気の決め方として正しいものを選ぶ」の設問において，正答率が88.9%で，市平均を大きく上回った。 ○「水蒸気の名称を答える」の設問において，正答率が72.2%で，市平均を大きく上回った。 ●「晴れの日の気温の変化のようすを選び，選んだ理由を答える」の設問において，正答率が55.6%で，市平均を大きく下回った。	地球の領域に関する学習は，身近な事物・現象であるが，その規模が大きいため，児童が実感をもって捉えることが難しいと考えられる。そのため，模型を用いたり，デジタル教材の動画を活用したりして児童の理解を図っていく。

宇都宮市立城山西小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，学校の授業の復習をしている」「家で，学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」など，家庭学習に関する設問において，肯定割合が市平均を大きく上回った。今後も家庭と連携しながら，自分で考えて家庭学習に取り組むことができるよう指導し，学力向上を目指していく。
○「勉強していて，おもしろい，楽しいと思うことがある」「ぎ問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」の設問において，肯定割合が市平均を大きく上回った。今後もその好奇心を大切にし，児童の興味・関心を引く教材・授業づくりを行っていく。
○「1か月に，何さつくらい本を読みますか」の設問において，１１冊以上と回答した児童が33.3%と，市平均を大きく上回った。今後も，司書教諭と連携を図り，積極的に図書室を利用する機会を設けたり，読書活動を推進したりしていく。
○「クラスは発言しやすい雰囲気である」の質問では，「はい」と答えた児童の割合が市平均を非常に大きく上回った。今後も小規模校として，児童間のコミュニケーションの活発さや協同的な雰囲気を生かした指導の工夫をしていく。
●「むずかしいことでも，失敗をおそれないでちょう戦している」の設問において，肯定割合が市平均を大きく下回った。今後は，道徳の授業を中心として，様々なことに挑戦することの大切さを伝えたり，挑戦する場を意図的に与えたりし，児童の自信につなげていく。
●「次の教科の授業の内容はよく分かりますか。算数」の項目では，肯定割合が市平均を大きく下回った。今後は算数の授業の中で，日常生活と関連させて考えることができるように工夫改善をしていくとともに，保護者とも連携を図り，普段の家庭生活の中で算数を用いる場面を積極的に取り入れていくよう，懇談会や学年だより等を使って促していく。
●「時間を上手に使うことを，心がけている」の項目では，肯定割合が市平均を非常に大きく下回り，「次の教科の問題をとく時間は十分でしたか。国語」「次の教科の問題をとく時間は十分でしたか。算数」の項目でも，「やや足りなかった」は市平均を上回った。時間の使い方や配分について，意識して課題に取り組む場面を意図的に設定していく。
●「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」の項目では，「はい」と回答した割合が，市平均を大きく下回った。児童同士でのやり取りを活発に行い，教師の授業中のコーディネート力を高め，児童の考えを深めるような授業展開を工夫していく。

宇都宮市立城山西小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
道徳科の授業を柱とした豊かな心を育む教育の推進	・宇都宮モデルを活用した授業改善の推進 ・認め励ます学習指導を通して，学習における達成感や自己肯定感を高める。 ・互いが尊重し合いながら学ぶ環境の整備 ・特別活動を要としたキャリア教育の充実と，学びの原動力となる知的好奇心の育成。	・学習に対しての粘り強い取り組みや挑戦する意欲について課題が見られた。 ・児童を肯定的に受け止め，認め励ます指導ができていると考えられる。
児童の学びを深めるための，教師のコーディネート力の向上	・全校共通の学業指導と学びに向かう集団づくり ・ハンドサインを活用した授業の展開 ・児童が考え議論し，学びを深めることのできる授業づくり ・一人一台端末を活用した協働的な学習との個別最適な学びの併用	・普段の授業の様子から見ると，どの学年においても積極的に話合い活動がされているが，調査結果では，児童の自己評価が高い学年と低い学年に分かれた。 ・話合い活動や様々な活動が肯定的に受け止められる学級の雰囲気作りができていると考えられる。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・学年間で，学習内容の定着度に差が見られた。 ・基礎的な事項が十分定着していない児童が一定数見られた。 ・教科や設問の形式によっては無答率が高い傾向が見られた。	・教科横断的な指導のより一層の充実 ・個に応じた指導の見直しと最適化 ・振返りの充実	・授業または単元の導入や終末において，学習内容がどのような事柄とつながりがあるのかを意識しながら学習できるようはたらきかけ，学習内容の有用性を実感できるようにしていく。 ・単元末または授業の終末において，児童それぞれが学んだことや学習活動を通して疑問に思ったこと・考えたこと，今後の学習に生かしたいことなどを言語化して表現する機会を設け，学びの連続性と必然性をもたせていく。